

米国国防総省は、2016年5月13日、「国防権限法」の規定により「中国の軍事動向に関する議会報告（Annual Report to Congress Military and Security Development involving the People's of Republic China 2015）」を公表しました。その目次は次の通りです。

要約（Executive Summary）

第1章：年次更新（Annual Update）

第2章：中国の戦略の理解（Understanding China's Strategy）

第3章：軍近代化のゴールと傾向（Force Modernization Goal and Trend）

第4章：軍近代化の資源（Resources for Force Modernization）

第5章：台湾有事への軍近代化（Force Modernization for a Taiwan Contingency）

第6章：米中間の軍間コンタクト（U.S-China Military-to-Military Contact）

特別トピック：宇宙輸送能力と打ち上げの傾向（Space Lift Capability and Launch Trend）

特別トピック：中国の発展とミサイル防衛試験（China's Development and Testing Missile Defense）

特別トピック：南シナ海における中国の埋め立て（China's Land Reclamation in the South China Sea）

付録Ⅰ：軍事交流（Military-to-Military Exchanges）

付録Ⅱ：中国と台湾の軍事データ（China and Taiwan Force Data）

付録Ⅲ：追加的地図及び海図（Additional Maps and Charts）

研究委員会では、今後興味ある部分を逐次抄訳し、ホームページに掲載したいと考えています。今回は、まず最初として「要約」の和訳を掲載します。

中国の軍事・安全保障に関する米国国防総省年次報告（要約）

中華人民共和国は、強度の地域紛争を短期間で戦うために、部隊の能力向上を意図した長期的包括的な軍事近代化計画を追求し続けている。台湾海峡の潜在的紛争に備えることが、中国の軍事的焦点であり、また、そのための軍事的努力を傾注している。しかしながら、中華人民共和国は、台湾以外の万一の場合の備えも強化している。それは例えば、東シナ海及び南シナ海における不慮に事態に対してである。加えて、中国のグローバルな足跡（footprint）及び国益の拡大にともない、中国の軍近代化計画は、自国周辺を超えた任務、すなわち、パワー・プロジェクション、シーレーンの安全、海賊対処、国際平和維持活動、人道支援・災害救助を含む任務の拡大に暫時精力を傾注させている。

中国は、人民解放軍（PLA）の近代化をグレート・パワーの立場を実現するために、また、習近平主席が提唱する「中国の夢（China Dream）：中華民族の偉大な復興」の国家的活性化のために必須と考えている。中国の指導者たちは、強い軍隊は他国が自国の国益に対して危害を及ぼす1歩を踏み出すことを防ぐために、また、抑止に失敗したとき自国の防衛を確かなものするために重要であるとみている。中国は、国内の発展とスムーズな中国の台頭のために、自国の周辺の根本的な安定を確かなものにしようと、また、米国との直接対決を避けることに努めている。それにもかかわらず、中国の指導者たちは2014年、優位に国益を追求するため、好んで地域の緊張をより高いレベルに許容してきた。例えば、東シナ海及び南シナ海における競合的な領域主張である。

中国の軍近代化は、核となる米国の軍事技術の優位性を減少させる可能性を持っている。中国は、2005年から2014年の物価上昇率を勘案した軍事予算が年率平均9.5%の成長であったと公式に明らかにしており、多分、見通しうる将来、同様なレベルで軍事予算を維持するであろう。さらに、中国は、敵のパワー・プロジェクションを打ち破り、また、危機あるいは紛争時における第3国（third-party）、—これには米国も含まれるが—、に對抗する能力に努力を傾注している。

2014年中 PLA は、戦域不慮事態（theater contingencies）対応能力向上を継続してきた。それらには、巡行ミサイル、短距離及び中距離弾道ミサイル、高性能航空機、統合的防空、情報戦、強襲上陸、空挺強襲が含まれる。PLA は、次の装備の開発と試験を行っている。すなわち、長距離弾道ミサイル及び新型の通常型中間—中距離弾道ミサイル、地上攻撃、中国の作戦範囲を拡大させる対艦巡行ミサイル。また、中国は、敵対勢力—これには米国が含まれる—が地域紛争に関与する可能性を少なくするよう試みている。中国はまた、宇宙空間、攻撃的なサイバー作戦、電子戦能力に焦点を当て、敵対者が近代的な情報戦において優位に立つことを拒否している。中国は2014年、スプラトリー諸島で埋め立てを開始し、前線基地のインフラを建設している。中国はこれらの基地を、紛争地域における重要なプレゼンスを強化する作戦のための軍民一体となった永続的な基地として使用することが可能である。

2014年のPLAの地球規模での作戦には、海賊対処、人道支援・災害救助、諸訓練、シーレーンの安全が含まれる。中でもハイライトは、第17次及び18次のアデン湾への海軍任務部隊の派遣。人民解放軍海軍フリゲート艦がシリアからの化学兵器材料を運搬する貨物船を護衛したこと。マレーシア航空MH370便の捜索、救難を行い、国連の平和維持活動に参加し、アフリカ大陸一周の航海を行ったこと。商級（SHANG-class）原子力潜水艦及び宋級（SONG-class）通常型潜水艦が初めてインド洋に展開したこと、である。

米国国防総省の中国へのアプローチは、アジア太平洋地域への広範な米国の戦略の一部であり、それらは、安定かつ多様化した安全保障秩序の構築、開かれた透明性のある経済秩序の構築、自由な政治的秩序の構築を重点的に取り扱っている。米国の対中政策は、米中両国の国益が重なり合う部分では現実的な協力を推し進め、違いを建設的に管理するという前提に基礎をおいている。

軍と軍との関係における積極的なモメンタムを維持することは、米国の政策目標を支援しており、それにより、中国に国際ルール及び規範を支持することに弾みをつけさせ、地域的あるいはグローバルな問題解決に寄与させるためである。国防総省は、中国との支援的かつ永続的な軍と軍との関係構築の継続を目指しているが、一方、中国に米国との、また我々の同盟国との、パートナーとの、さらにはより広い国際社会との平和的かつ安定的な関係を維持する建設的な努力に寄与することも促すものである。

米国は、中国との軍と軍との関係のより強い基礎を築くために、中国の発展する軍事戦略、ドクトリン、部隊の能力向上を監視し続け、中国に軍の近代化計画に関してさらに透明性を高めさせなければならない。同盟国、パートナーと一致協力して米国は、アジア太平洋の安全保障環境を安定的かつ確かなものに維持するように、作戦概念、方針、軍事力を適応させ続けるつもりである。